日本歯科新聞
2024年（令和6年）
11月19日
＜発行所＞
日本歯科新聞社
厚生労働省記者クラブ加盟社
〒101-0061
東京都千代田区神田三崎町2-15-2
電　話　03（3234）2475
FAX　03（3234）2477
www.dentalnews.co.jp
jdn@dentalnews.co.jp
無断転載禁止
■年間購読料 23,760円（送料込）
（本体21,600円＋税）
■月4回、火曜日発行
■郵便口座番号 00120-5-130369

「呑んで漢方」が会合

更年期の歯科漢方診療を確立へ

歯科独自の漢方診療の体系を確立すべく、歯科から難治性疾患を診療する歯科医師らが更年期歯科外来の実現を目指して交流を図っている。「呑んで漢方　更年期女性歯科外来」の集まりが、9日、東京都内のバーで開催され＝写真、歯科の特異性に配慮した漢方診療の体系を学ぶとともに、日ごろ接している難しい症例を相談し合った。世話人は仲井太心氏（東京都開業）。

講師は、横浜歯科漢方研究会の渡辺秀司氏（神奈川県開業）、片岡加奈子氏（神奈川県勤務）。少人数でじっくりお酒を飲みながら臨床の疑問点を話し合う集まりで、率直な意見交換が続いた。

◆◇◆

渡辺氏は、20代のころから湿疹に悩み、最近では歯肉の腫れと口臭の自覚に悩む34歳女性を典型的な症例として提示。歯科における漢方診療で重要な点として、患者の訴えをそのまま聞いて、そこから複数の要素を拾い上げるプロセスだと強調した。これにより、主訴や既往歴だけでなく、基礎的な体質や生活習慣が伺えるため、漢方の基本となる「証」の判断に生かせるという。

歯科特有の漢方の考え方として、「気」「血」「水」の状態を判別するのに、「気」は咬合、「血」は歯肉、「水」は唾液を診ることだと指摘。特に、咬合によって短期間に気の状態が変化することから、漢方医学の体系を理解しつつ、歯科の基本として咬合へのアプローチを意識することが重要だと訴えた。

また、歯科における漢方は、対症療法だとして、さまざまな要因によって変化し続ける心身の状態に合わせ、処方を変えていくことが必要だと指摘。右上4番の抜髄後疼痛がひどくて、気鬱→気逆→気虚と体力、気力が失われていく症例を紹介し、神経系、免疫系、内分泌系の変化に応じた処方が必要との考えを示した。

そのうえで、歯科医師が行う漢方臨床は、口腔疾患の変化が急激であることなどから、内科医の漢方臨床より難しい面も多いとして、「歯科でも漢方」ではなく、「歯科での漢方」を確立する必要があると主張した。

◆◇◆

片岡氏は、漢方診療を取り入れている歯科医院が、更年期の女性特有の悩みに応える「更年期歯科外来」を設置するアイデアを提唱。講演では、更年期障害の生物学的背景、社会環境的背景について解説したうえで、更年期に特有の歯科口腔疾患とその対応を説明した。

代表的な疾患として、口腔乾燥症、舌痛症、味覚障害、歯周病、骨粗鬆症、顎関節症をあげ、それぞれに適合する漢方薬を紹介した。むくみを伴う口腔乾燥症には五苓散が用いられるが、更年期には、ホルモンバランスの障害からうつ症状を呈している症例もあるとして、十全大補湯が有効なケースも多いとした。メンタルの不調が背景にある味覚異常にも、十全大補湯が用いられる。

また、更年期に長期化するメンタルの不調に対して、化粧療法を紹介。化粧することで、自信をつけて社会性を回復してもらうのも、更年期外来では有効なのではないか、との考えを示した。

口腔疾患に用いられる漢方薬

（渡辺氏資料より改変）

〈一般に保険診療で認められている〉

①立効散（歯痛、抜歯後疼痛）
②半夏瀉心湯（口内炎）
③黄連湯（口内炎）
④茵陳蒿湯（口内炎）
⑤五苓散（口腔乾燥症）
⑥白虎加人参湯（口腔乾燥症）
⑦排膿散及湯（歯周炎）

〈摘要欄記載で認められることもある〉

①小柴胡湯（口内炎、舌痛症）
②麦門冬湯（口腔乾燥症）
③人参養栄湯（口腔乾燥症）
④桔梗湯（歯痛）
⑤加味逍遙散（顎関節症、舌痛症）
⑥柴朴湯（顎関節症、舌痛症）
⑦黄連湯（舌痛症）
⑧附子末（舌痛症）など

＊舌痛症には口腔心身症も含む